

第57回

全日本歯科学生総合体育大会 開催される

TOKYO



野球部



アーチェリー部



ソフトテニス部



水泳部



硬式テニス部



卓球部 (男子)



卓球部 (女子)



バスケットボール部 (男子)



バスケットボール部 (女子)



バレー部



陸上部



剣道部



空手部



柔道部

第57回全日本歯科学生総合体育大会(歯学体)は鶴見大学歯学部が事務主管のもと、冬期2部門が終了し、生命歯学部ではスキー部門(3月開催)が第4位、ラグビーフットボール(昨年12月開催)が第5位と健闘し入賞を果たしました。夏期歯学体は7月31日に横浜市内で開催された開会式を皮切りに、21部門の熱戦が8月10日まで繰り広げられました。

生命歯学部では15部門に出場し、255名の学生が参加しました。今大会では、バスケットボール部が総合優勝(女子が1位、男子が2位)に輝き、野球部は炎天下の中、逆転劇を演じ肉薄した接戦を制して優勝を

飾り、男子硬式庭球部も優勝という素晴らしい成果を勝ち取りました。さらに、剣道部が準優勝、アーチェリー部が3位と健闘したことで、生命歯学部は総合成績では第5位となりました。

猛暑にも関わらず、熱い戦いに挑む学生の姿には、日頃とは違った逞しさ、力強さを感じました。競技で得られた様々な経験や思いを糧に、文武両道の学生としてさらなる飛躍を願っているところです。日頃から学生のために熱意溢れるご指導をいただいているクラブ顧問の先生、監督、コーチのOBの先生に心より感謝、御礼を申し上げます。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



生命歯学部
学生部長

田谷 雄二

NIIGATA 全日本歯科学生総合体育大会

新 潟生命歯学部では、陸上競技部が部門主幹として佐渡市陸上競技場を会場に大会を開催し、佐渡市陸上競技会の多大なる協力を得て、滞りなく終了しました。

冬期・夏期を通じて、新潟生命歯学部からは10部門、計138名の学生が出場し、総合成績は21位(デンタルポイント29.1)となりました。部門別では、サッカー部が3位、スキー部が5位、剣道部(長崎大学合同チーム)が5位、硬式庭球部が8位、ラグビーフットボール部が9位、水泳部が10位と、各部がデンタルポイントを獲得しました。

夏期部門の水泳競技では、滝澤瑛美莉さん(3年・主将)が女子100mバタフライで優勝、室井杏友さん(3年)が女子100m自由形で優勝、野本佑太さん(1年)が男子200m背泳ぎおよび男子

50m背泳ぎ新人戦で優勝するなど、個人競技でも多くの成果が挙げられました。さらに、陸上競技およびスキー競技でも多数の入賞者を輩出し、各部門員が持てる力を存分に発揮しました。

大会期間中は猛暑が続き、熱中症への懸念もありましたが、顧問の先生方に加え、多くのOB・OGの皆様から現地での応援やサポートをいただき、全競技を無事に終了することができました。心より感謝申し上げます。

今後も学生部・学生会が連携し、さらなる上位成績を目指して活動を継続してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



新潟生命歯学部
学生部長
二宮 一智



水泳部



陸上部



バスケットボール部



硬式テニス部



バドミントン部

第54回 浜浦祭

このたび6月22日(日)に開催した第54回浜浦祭は、無事に閉祭いたしました。今年度のテーマ「紡ぐ」には、笑い声溢れる学園祭の中で、一つ一つの出会いや思い出が結ばれていくことへの願いを込めました。当日は天候にも恵まれ、模擬店や縁日、無料歯科相談を始めとする様々な場面で学生たちの生き生きとした姿を見ることができました。ご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



新潟生命歯学部2年
遠山ひなた



開会式の様子



射的やわなげなどの縁日も賑わった



新潟大学とのバスケットボール部交流戦



軽音部によるライブも盛り上がった



無料歯科相談を実施した5年生



無料歯科相談の様子



駐車場にはキッチンカーが7台出店した

新潟



新潟生命歯学部
病理学講座
岡田 康男

私は口腔病理と口腔外科の両方の専門医・指導医の資格を有することから、「二刀流」の先生といわれることがあります。その原点は高校時代、上顎洞炎で金沢大学附属病院に入院した際に、口腔癌の患者さんと出会った経験にさかのぼります。

本学入学前の富山大学の学生時代には、他学部の友人も多くでき、卒研の動力熱工学では南極観測船「宗谷」のエンジン設計者である教授の下で学び、充実していました。しかし「本当にやりたいこと」はみつけれず、スポーツ教室のインストラクターなどをしていました。

そうした中、諸般の事情で新潟歯学部に入学できたことは大きな喜びでした。学生時代にはアマチュア無線部の東京校との合同合宿や、全日本ラリー選手権トップ選手との練習など、多くの学びと楽しい思い出を得ました。卒業後は、第2口腔外科での大学院生時代から准教授時代を経て、さらに病理へと歩を進めた中で、口腔癌研究を継続しました。華西医科大学での手術、産業医大での癌遺伝子治療、

東京大学医学部での病理診断の研鑽などを通じて、今の自分が形づくられてきたのだと思います。

学生の皆さんには、「しなければいけないこと」に追われるだけでなく、ぜひ自分の「やりたいこと」をみつけれられる有意義な学生生活を送ってほしいと願っています。



①やりたいことがみつけれずにもがいていた頃(右) ②アマチュア無線のコンテスト参加中
③登院時代の研修室で ④第2口腔外科医局でのスキーツアー(左)

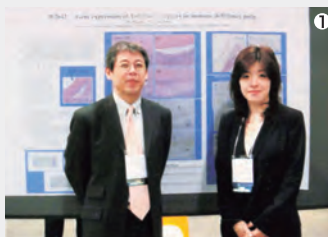
東京



日本歯科大学
附属病院
総合診療科1
武藤 徳子

私は、歯学部の学生の頃から大学院への進学を希望していました。学位取得のための学術論文は、世界中どこで働くことになったとしても、私自身の仕事を知ってもらうための手段になるのではと考えていたからです。口腔疾患の診断力を学びたいと病理学を選びましたが、指導教授からは、免疫学をテーマにし、歯科医療現場に還元しなさいと強く勧められました。今も自然免疫は私の研究の礎となっています。

この、私にとって最初の恩師となった指導教授は、日本歯科大学を卒業され、横須賀の地で教鞭を取られていた渡辺は久先生です。20年の時を得て、御縁を深く感じております。



①大学院時代の学会発表。直接、研究指導をいただいた石井信之先生と発表ポスターの前で記念写真
②大学院2年生で初めて国際学会に参加した際のひとコマ ③④自然免疫研究を共に行った大学院生達

こうゆう先輩 第36回

歯学部で学ぶ皆さんへ

神崎 貴紀(85回)



開業してから22年が経ちますが、今でもオープニングスタッフが現役で、いちばん若いスタッフでも13年目。長く安心して働いてくれるスタッフがいることは、医院にとって何よりの財産です。

それは、特別な仕組みを作ったわけではなく、日々の感謝と信頼の積み重ねによって築かれてきたものだと思います。どれだけ技術があっても、患者さんやスタッフに信頼されなければ、本当に長く続けることはできません。人と人との信頼関係で成り立つ場所こそが、医院ではないでしょうか。

開業時に私が意識したのは「差別化」ではなく「独自化」です。

他院と比べて優れているかどうかより、自分にしかできないスタイルをどう築くか。患者さんやスタッフに、安心してもらえる空間をつくる。色々な「しかけ」を作り、日々診療をしています。

皆さんが将来、歯科医師として社会に羽ばたく日が近づいています。今の学びは一見、遠回りに感じることもあるかもしれませんが、皆さんが学んでいるどれもが臨床で確実に生きてきます。

そして、「技術」や「知識」だけでなく、「どんな医院を、誰と、どんなふうに関りたいか」という視点を持ってください。

人との信頼関係を大切にし、自分らしい道を歩むことが、必ず患者さんにも伝わります。

そしてそれが、長く愛される歯科医師への一歩になると私は思っています。



ポート部同期+後輩達と同窓会



スぺーシアXのcockpitシートでスタッフ旅行

『イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第5版』

監著：竹澤保政

編集：渡邊美里、畠中能子、松本ゆかり

出版社：永末書店 出版年月：2025/01

請求記号：D.94/Ta69/5th 登録番号：100040053

「イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」が新たな項目として口腔内スキャナーを追加し、4回目の改訂を迎えました。写真や図をふんだんに使いながら、歯科材料や薬剤の使用手順をわかりやすく解説しており、実際の作業手順がイメージしやすくなっています。また、記載されたQRコードを読み込むことで、臨床での作業動画を閲覧でき、より実践的な理解を深めることができます。



●図書館開館情報

開館情報はQRコードから閲覧ください。

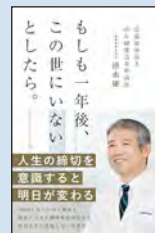
『もしも一年後、この世にいないとしたら。』

編：清水研

出版社：医歯薬出版株式会社 出版年：2019

請求記号：M4.5-S 登録番号：000142089

本書では、がん治療で実際に行われている精神的ケアから、人々ががん罹患した際にどのようにして死の意識と向き合っていくのか、また、周りの人々や医療従事者はどのようにしてがんの当事者と関わっていくのかということについて紹介されています。当事者目線でも、関わる人の目線でも読むことができるため、読者にとって様々なことについて考えられる書籍になっています。特に学生が今後医療従事者として、患者さんと関わっていくうえでおすすめできる1冊です。



●図書館開館情報

平日 9:00～18:00 第2水曜日 12:00～18:00 土曜日 終日閉館
貸出・返却・閲覧のみの利用になります。

よく遊びよく学び(べ)

私は昭和22年8月29日、終戦後の真夏の暑い日に広島県呉市で生まれ、その後は高校時代まで倉敷で過ごした。「遊ばない人間に仕事ができるか」を座右の銘とし、二足ならん三足の草鞋を履いて生きてきたと思う。

小学校時代はソフトボールを、高校・大学の9年間は、バスケットボール部に所属し歯学体にて「初優勝」した。また学園祭では詩集「智恵子抄」朗読を文芸部で行い「日歯文学」を発行した。

卒業後は山梨県甲府市の開業医に勤務しながら、特別研究生として本学小児歯科学教室に通った。その頃は患者さんとテニスに明け暮れた。

東京に移り勤務医した後東京都東村山市に開業した。

東京で「小林道場の傘下錬心館道場館長：高橋誠一先生(49回卒)」と出会い合気道も始めた。

黒帯を取得するために週3回畳の上で稽古に精進して汗を流した(現在合気道2段)。

小林道場長にカナダ、アルゼンチン、ブラジル、台湾等に行き、台北においては導主、植芝吉祥丸先生の講習会で指導もした。

テニスの方ではクラブ内対抗ダブルス戦で優勝した。

学生諸君にも二足ならん三足の草鞋を履いて教室の中だけでなく、青春を謳歌して、学生生活を送っていただきたいと思います。

最後に、本学バスケットボール部OBとして、第57回夏期歯学体にて「女子優勝・男子準優勝」に私は拍手を送りたい。



日本歯科大学校友会 会長

渡邊 儀一郎



当時の若かりし頃の私

右側 高橋誠一先生(49回卒)
錬心館道場館長
左側 当時の若かりし頃の私クラブ内対抗テニス大会
ダブルス戦優勝トロフィー

国家試験体験記

私は第118回歯科医師国家試験に合格し、現在は臨床研修歯科医として診療を行っています。国家試験を経験し、大切だと感じたことは以下の2点です。

●覚えるのではなく理解する

国家試験では、単なる暗記では太刀打ちできない問題が多々あります。一対一で覚えるのではなく機序や理由を理解することで、考える力が身に付き、対応できる問題の幅が広がるとともに単純暗記を減らすことにもつながるはずです。

●問題を丁寧に解く

つい正答だけを求めてしまいがちですが、正答肢だけでなく誤答肢から学ぶこともたくさんあります。全ての選択肢についてよく考え、問題を丁寧に解くことで力がつくと思います。

このような考える習慣は臨床でも活けると日々実感しています。努力した分は必ず自分に返ってくると信じて、学生生活も楽しみながら頑張ってください。皆様の国家試験合格を心よりお祈り申し上げます。

附属病院
臨床研修歯科医
飯田あき
(114回)

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

